

# きょうさいだより



佐世保共済病院写真コンテスト院長賞 小山 保則 【対馬瀬灯台(宇久町)】

## 理念

博愛の精神  
人の和  
自己研鑽

## 目標

1. 私達は、地域のみなさんのニーズに応え、信頼してもらえる医療をめざします。
2. 私達は、他の医療機関と共に、地域のみなさんの診療と健康増進に努めます。
3. 私達は、新しい医学、医療の知識と情報を取り入れ、常に自己啓発に努めます。
4. 私達は、それぞれが自己の責任を自覚し、安全な診療をめざします。
5. 私達は、病める人の苦しみや喜びを分かち合う心をもって診療に努めます。

## I N D E X

- 院長挨拶、松永章外科顧問、今井賞を受賞 ..... P.1
- 第1回臨床病理検討会(CPC)を終えて、学術講演会報告、 ..... P.2
- 診療活動の現況(整形外科) ..... P.3 P.4
- 職場紹介(給食課・調理室)、院内ミニコンサート開催 ..... P.5
- 第12回佐世保共済病院看護婦養成所(学院)同窓会の報告、年末・年始の当直体制、編集後記 ..... P.6
- 外来診療担当表 ..... P.7



医療制度改正の激動で揺れた平成14年も終りに近づきました。医療保険費負担が増えた住民の皆さんも、存続をかけて努力している医療施設もそれぞれ苦勞しておられることと思います。

厚生労働省は、明年8月までに各病院の病床区分の届け出を義務付けています。すなわち、急性期病床と療養（慢性期）病床あるいは両者の混合のいずれかに区分して届け出しなければなりません。佐世保共済病院の入院患者さんのほとんどは急性期に相当する治療を受けておられますが、一部の方は慢性期（6ヶ月以上）に渡り入院しておられます。急性期病床だけの病院として届け出を出すと、特殊な疾患の患者さんを除き慢性期に達した患者さんを入院させておくことが出来なくなります。また、急性期を過ぎてなお加療を要する患者さんを引き受ける後方病院は、必ずしも充分ではありません。したがって、佐世保共済病院ではこれまでの一般病床433床のうちの40床を療養病床とし、あとは急性期病床として届け出をすることに致しました。そのための病院改造工事が明年すぐに始まります。ご迷惑をお掛けすることになるかもしれませんが、ご理解のほどをお願い致します。

明年は、社会面でも医療面でも明るさが見えてくる年になってもらいたいものです。さわやかな新年をお迎えになるように祈ります。

## 松永章外科顧問、今井賞を受賞

事務部長 山崎 透

松永章外科顧問は、連合会最高の名誉である今井賞を受賞しました。表彰式はさる10月20日に横浜市で開催された第51回共済医学会において行われ、寺村理事長から表彰状及び記念品が授与されました。

今井賞は、昭和45年に国家公務員共済組合連合会の初代理事長であった今井一男氏から表彰基金の寄付を受け設立されたもので、連合会の事業運営に顕著な功績のあった職員を表彰するものです。氏の表彰理由は、昭和53年4月に当院に就職し、外科部長を経て、平成10年4月に副院長に就任、平成12年4月から院長代行を務めるなど、診療部門の長として、また管理者として良くリーダーシップを発揮したこと、また外科臨床医として、一般消化器疾患の手術及び治療はもとより、特に肝胆膵疾患への内視鏡的治療における先駆者的な取組みが高く評価されたものです。氏の受賞は、当院にとって誇りであり、職員一同の喜びであります。



## 第1回臨床病理検討会(CPC)を終えて

臨床検査部長 いせき まさちか 井関 充及

共済病院での第一回臨床病理検討会がさる9月18日に開催され、職員113名が参加して活発な議論を交わしました。臨床病理検討会は通常clinicopathological conferenceを略しCPCと称されています。CPCは剖検結果を病理医が提示し、その結果に関して臨床医などと議論をし病態の本質に迫ろうとの目的で開催されます。

近年、医療器機の飛躍的な進歩や、剖検の教育的意義を疑問視する見解などから世界の趨勢として剖検率は減少傾向にあります。しかし各国の医学研究者は剖検率の低下に危機感を抱き、剖検の重要性を報告しています。例えばDurning S(2000年)らは全剖検例中34%で予想外の病理診断であり、11%が予想外の死因診断、さらに79%で予想外の追加診断がなされたことから剖検は医学教育・研究に不可欠な要素であると結んでいます。

病気に罹患し、何らかの原因で不幸な転機をとられた患者さんおよび家族の方々から剖検の承諾を頂く事は、病める人の為の医療行為であると言われていています。亡くなられた患者さんが我々に語りかける事実に関心と細心の注意を払い耳を傾けなければなりません。また剖検結果を医療現場に反映し医療の質向上に努めなければなりません。

CPCの医療における重要性はいまさら述べるまでもありませんが、これを継続する事がよりよい医療に直結するものと思われまます。

## 学術講演会報告

合同カンファランス委員(経理課長) やまぐち かずと 山口 一登

さる10月25日、当院形成外科 芳田辰也医長を講師とし、当院 病診・病病連携の会主催による院内学術講演会が開催されました。

「形成外科とは」という演題で、熱傷や褥創を始め手・足(指・趾)の切断に対する再建に至るまで幅広い範囲に渡り、分かり易く講演して頂きました。講演会には、市内外の病・医院の先生方にも多数御出席頂き、活発なディスカッションが続き、たいへん盛り上がった講演会となりました。

## 三階南病棟紹介

整形外科病棟看護師長 中村 広子

整形外科病棟は、57床の病床で、看護師20名、看護助手4名のスタッフです。50歳代から20歳代にわたるピラミッド型の年齢構成で、スタッフ全員活気があり、患者さんも含め明るい病棟です。

病棟全体が特に緊張する日があります。毎週の金曜日、午後の総回診です。整形医師・理学療法士・担当薬剤師・看護師と一緒に患者さんの治療方針、経過等を診ていきます。これが整形外科病棟のチーム医療の要の役を果たしていると思います。

整形病棟の特徴として、患者さんのほとんどが手術後、又はギブス装着などで何らかのADL障害を持っています。このため入院患者さんの約半数に入浴・シャワー介助を要し、月・木曜日にはスタッフ全員が掛かりきりとなっています。浴室が狭いなどの構造上の問題がある中で、いかに患者さんのQOLを高める介助をしていくか、小集団活動でも取り上げながら努力していきたいと思っています。





### I はじめに

整形外科疾患の最近の特徴を考えるとすれば高齢者社会の到来に伴う老人性の脆弱骨折および変性疾患の増加と、小中学生から中高年層に及ぶスポーツ障害の増加があげられるかと思えます。治療する側にとっては関節鏡視下手術の発展、人工関節の手術法およびインプラントの進歩、MRI・ヘリカルCTなど新しい診断装置の開発などの新技術が次々に出現してきています。当科でもこれらの最新の成果をいち早く取り入れながら日々の診療に役立てようにつとめているところです。

### II 当科の紹介

佐世保共済病院整形外科は昭和24年に佐世保地区で最初の診療科として設立されました。現在は整形外科医6名のスタッフで月曜から金曜まで毎日午前中は外来、午後は手術という日程で診療を行っています。表に昨年の主な手術件数をお示しします。以下、我々が取り扱っている主な疾患についてその概略をご説明してみたいと思います。

### III 下肢の関節疾患

高齢で元気な方々がますます増えてくるのは大変結構なことですが、一方で膝や股関節など下肢の痛みに悩む人たちも増加する傾向にあります。もちろん治療の原則は保存的治療ですので、注射・投薬・筋力訓練・装具・減量など様々な治療を行いますが、中でも高度の障害に対しては股関節と膝関節では人工関節置換術が近年めざましい発達を遂げてきており、多くの場合確実な手術効果をお約束できるまでになってきました。例えば人工膝関節では変型や痛みを取ることはもちろん、膝の曲がりの角度も術前より改善が得られてあぐらや横座りが出来るようになってきています。大変満足度の高い、おすすめる手術です。

やや若年の方や変型の少ない方には骨盤・大腿骨・脛骨の骨切り手術を行っています。

### IV 上肢の関節疾患

この分野での最近のトピックスは肩関節に対する関節鏡視下手術が行えるようになったことです。MRIによる診断技術の進歩と相まって、関節を大きく開けることなく最小の侵襲で関節唇障害や腱板断裂の手術が出来るようになってきました。手関節・肘関節に対しても同様の鏡視下手術を行っています。

### V 手の外科

かつてのようなプレス機械事故などによる重篤な切断の症例は減ってきてはおりますが、手指の切断、外傷は決して少なくはありません。当科では顕微鏡視下の断指再接着術を始め、救急手の外科症例および外傷治療に24時間体制で対応しています。

#### 2001年 手術件数

人工股関節置換術 (THA)	13
股関節形成術	2
人工膝関節置換術 (TKA)	34
膝関節形成術	6
脛骨高位骨切術 (H・T・O)	9
膝前十字靭帯再建術	15
その他の膝靭帯手術	3
膝関節鏡視手術 (半月板等)	45
足関節形成術	3
足関節靭帯手術	12
肩関節形成術	4
肩関節鏡視手術	5
肩腱板再建術	8
腰椎手術	32
胸椎手術	1
頸椎手術	13
大腿骨頸部骨折	76
その他の下肢骨折	44
上肢骨折	75
手の外科手術 (外傷を含む)	56
末梢神経手術	11
その他	112
<small>アキレス腱、四肢切断、腫瘍、感染症、抜釘 など</small>	
総計	579例

## VI 脊椎疾患

脊椎管狭窄症という病態のために長く歩くと両足がしびれてくると訴える高齢者が増えてきています。しばらく立ち止まったり、体を前屈したりするとまた歩けるようになるというのが特徴です。MRIによって診断することが出来ます。薬物療法で効果が得られない場合は手術を行うことによって良好な成績が得られています。このほか近年めざましい発展を遂げている金属固定材料を用いたインスツルメンテーション手術などが増えてきています。

## VII スポーツ整形外科

スポーツ障害に多い膝・肩・足関節・手関節の損傷では、MRIによって詳細な情報が得られるようになってきました。関節鏡を用いた手術も日進月歩の感があります。このような技術を取り入れて膝の十字靭帯・側副靭帯・肩の関節唇損傷など様々な障害に対して最小侵襲による治療を心がけて対処しております。

## VIII 骨折 外傷

救急外来には実に様々な外傷の受診がありますが、なんといっても高齢者の大腿骨頸部骨折が群を抜いて多く、その件数はこの10年来幾何級数的に増えてきています。この骨折の場合長く臥床していると歩行能力が著しく落ちるので、出来るだけ早期に手術を行い積極的にリハビリを進める必要があります。

当科では可能なら受傷当日に手術を行い、抜糸が終わり次第歩行訓練を始めることにしています。このときに活躍しているのが当院が(株)ジャパンアクアテック社と共同開発した回流式歩行プール「フローミル」です(写真1)。温水の中では浮力と温熱効果によって痛みなく楽に歩くことが出来るので訓練意欲が高まり大変効果があります。

## IX 転倒予防教室

高齢者で一度転倒して骨折したことがある人は再骨折する率がそうでない人の6倍も高いといわれています。ことわざに「転ばぬ先の杖」といいますが、健康で活動的な生活のためには丈夫な足腰を維持することが大切です。このような観点から当院では「転倒予防教室」を来春から開催することと致しました。水中でのバランス訓練や筋力訓練を中心に全部で8回ほどのコースとなる予定です。関心のある方はリハビリテーション科の窓口又は病診連携室にご連絡ください。

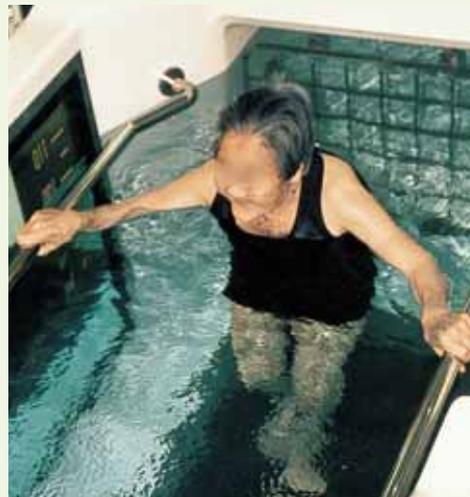
### 診療案内

#### ◎外来診療日

月～金曜：午前中 毎日(担当医は裏面参照)  
(急患は時間外も対応致します。)

#### ◎特殊検査

毎日受付します。(予約制)  
MRI、CT、骨シンチ、エコー、関節造影など



(写真1)

回流式歩行プール「フローミル」で骨折後の訓練をする102才の患者さん



整形外科医師スタッフ

**Q** どんな職場ですか？

**A** 調理部門16名で、朝は5時過ぎから夕方6時まで毎日時間に追われて仕事をしています。とても1日が早いです。昔からすると若い人が増えたことで年齢のバランスが良くなり、職場の雰囲気が明るくなりました。

**Q** 一日に何食分の給食を作るのですか？

**A** 毎日ばらつきはありますが、約1,000食作ります。

**Q** 仕事上、苦労していることは何ですか？

**A** やはり衛生面です。特に夏場、梅雨時期は食中毒が多発する時期ですのでとても気を使います。また、少数ですが患者さん個人の好き嫌いに対応するのに苦労します。しかし、おいしく召し上がっていただくためには苦労は惜しみません。冷凍食品はなるべく使わず、時間はかかりますができるだけ手作りのものを提供できるよう努力しています。

**Q** うれしかったことは？

**A** 患者さんからおいしかったという声やメモをいただいた時です。



(カメレオンは、後列左から3人目)

**Q** おもしろいエピソードなど

**A** 私の顔色を見ればすぐに機嫌がわかるようで仕事のバロメーターにしている人もいます。自称カメレオンです。

**Q** 自慢のメニューを教えてください。

**A** 人間ドックの患者さん用の特別メニューです。食器（有田焼）からこだわり、和会席で提供しています。基本メニューでは昔からの味を受け継いでいるカレー、手作りの俵コロケが好評です。

**Q** 最後に一言

**A** これからも私たちのモットーである「温かいものは温かく、冷たいものは冷たいうちに召し上がっていただく」ことをいつも心掛けて給食を提供していきたいと思います。

インタビュー／編集委員：森 博紀

## 院内ミニコンサート開催

編集委員（医事課） 平田 和歌子



秋も深まる10月中旬、佐世保市出身のピアニスト・森田真帆さんのご厚意によって、院内においてミニコンサートが開催されました。

プログラムはエルガー作曲の「愛の挨拶」に始まり、クラシックやディズニー映画の主題歌、日本の愛称曲など10曲余りが演奏されました。

ヴァイオリニスト・林菜都子さんとの二重奏によるつややかで深い音色に、会場に集まった患者さんや職員一同、芸術の秋を満喫していました。

## 第12回佐世保共済病院看護婦養成所(学院)同窓会の報告 元看護部長 諸石ヤスエ

10月19日佐世保玉屋文化ホールで開催された第12回の同窓会には、東京・埼玉・大阪・京都をはじめ全国から212名の参加がありました。80歳以上の参加者18名、米寿の方3名、最後の卒業生が平成15年には還暦を迎えることとなります。70歳を越えても現役で活躍している方もおられました。

今年は共済病院院長の福井仁士先生に特別講演をお願いし、脳の世紀21世紀にちなんで「老いを健やかに生きる為には」という演題で有意義な講話をして頂きました。

さて私達の同窓会の始まりは、病院創立50周年の昭和39年のことでした。昭和41年からは3年毎に行うことになり今年で12回目になりました。

発足当時の出席者は400名を越えていて、日赤合同養成の頃の卒業生も出席されていました。出席者は年々減ってきてはいますが、今回も200名以上の参加があり盛会でした。

毎回開催に当っては1年計画で各学年代表が月1回集まり当日に備えます。総会の時には先輩後輩の席順はきびしく緊張する場面もありますが、懇親会では、各級が集い青春の頃を振り返って、一夜を話に花を咲かせます。

今年は90歳のM先輩が大鍵を振って「黒田節」を披露されるなどの余興もあり、大いに盛り上りました。(写真)心身共にリラックスして大いに楽しみ、3年後の再会を約して別れていきました。



### —— 年末・年始の当直体制 ——

平成14年	内科系当直	外科系当直
12月28日(土)	放射線科	泌尿器科
12月29日(日)	内科	泌尿器科
12月30日(月)	内科	形成外科
12月31日(火)	内科	外科

平成15年	内科系当直	外科系当直
1月1日(水)	皮膚科	整形外科
1月2日(木)	放射線科	整形外科
1月3日(金)	内科	外科
1月4日(土)	放射線科	脳神経外科
1月5日(日)	放射線科	耳鼻咽喉科

※当直科以外でも診察いたします。  
 ※小児科、産婦人科は連日待機しています。

### 編集後記

今年は初秋からいきなり冬を迎えたようで秋を楽しむ間もなかったのが心残りでしたが、急な寒さのお蔭で佐世保河畔の桜並木は例年になく美しく紅葉していました。

「きょうさいだより」も御蔭をもって1周年を経過しました。更なる一年に向けて新しい企画など用意しているところです。

編集委員長 萩原 博嗣



科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後		
内科	部長	金谷庄藏			●		●				●		循環器疾患 (平成14年12月31日退職予定)	
	医長	福山邦昭	●				●		●				肝臓、胆嚢、膵臓疾患	
	"	佐藤浩信			●						●		消化器疾患、膠原病	
	"	川崎千之	●		●				●				血液疾患	
	"	松見里美	●				●				●		一般内科、消化器疾患	
	"	野口誠司			●				●		●		肝臓、胆嚢、膵臓疾患、消化器疾患	
	"	車忠雄	●				●				●		循環器疾患	
	医員	日高孝子			●		●		●				呼吸器疾患	
	"	大塚容子	●						●		●		腎臓疾患	
	"	石橋貞利	●		●				●				消化器疾患	
	"	久間文明			●		●		●				循環器疾患	
	"	松永圭司	●				●				●		消化器疾患、一般内科	
	"	井川敬			●						●		一般内科	
	"	幣光太郎	●						●				一般内科	
	糖尿病教室					●		●		●		●	※詳細は内科外来へお尋ね下さい。	
小児科	医長	岡尚記	●		●						●		小児科一般	
	医員	古賀英子	●				●		●				小児アレルギー疾患	
	"	大坪善数			●				●				気管支喘息	
	"	原美智子					●				●			
		乳児健診					●							火曜PM1:00~
		慢性外来							●					水曜PM2:00~
		神経外来							●					水曜PM2:00~
	喘息外来								●				木曜PM2:00~	
外科	外科顧問	松永章							●				一般外科、消化器科外科、血管外科	
	部長	江里口直文	(●)				●				●		呼吸器外科、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術	
	医長	田山光介	●				●						内視鏡下外科手術	
	医員	二又泰彦			●				●				(●)…月曜の江里口の診療は新患のみ受付	
	"	朽網留美子							●				※血管外科と呼吸器外科は月曜と水曜の午後	
	"	田中厚寿	●				●						※月曜~金曜の午後は手術	
	"	川畑方博			●						●		※詳細は外科外来へお尋ね下さい。	
"	原田克司	●				●				●				
脳神経外科	院長	福井仁士	●				●						脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊椎外科	
	部長	山川勇造							●		●		小児の神経外科、顔面痙攣	
	医員	濱田康宏	●						●				三叉神経痛の外科手術	
整形外科	部長	萩原博嗣	●				●				●		骨関節疾患全般	
	医長	中家一寿	●		●				●				・股・膝関節の関節形成術、人工関節置換術	
	医員	小澤慶一					●		●		●		・膝・肩・手・肘の鏡視下手術	
	"	芳田辰也	●		●				●		●		・脊椎外科、腰部疾患手術	
	"	斎田義和			●		●		●		●		・肩・手の外科(断肢再接着手術を含む)	
"	水城安尋	●		●		●						・リウマチ、スポーツ整形外科、足の外科など		
形成外科	医長	芳田辰也	●		●					●		先天性奇形、顔面外傷、瘢痕形成、再建外科		
皮膚科	医長	井上卓也	●	●	●		●		●	●	●		※火・水・金午後は手術(陥入爪等)	
	医員	米村真由	●	●	●		●		●	●	●		※水曜の午後は入院患者の手術のみ ※午後の診療はPM2:00~	
泌尿器科	部長	山田潤	●				●				●		尿路結石、尿路腫瘍、前立腺疾患	
	医長	森光浩	●						●		●		体外衝撃波結石破碎術(ESWL)	
	医員	鳥山浩二			●				●				尿失禁	
	"	大仁田亨			●		●						※火曜の診療については外来へお尋ね下さい。	
産婦人科	部長	木寺義郎	●				●				●		産科・周産期医療	
	医長	鶴地伸宏	●		●		●		●				不妊症・内分泌疾患	
	医員	大塚未砂子	●		●		●		●		●		体外受精・胚移植術、腹腔鏡下手術	
	"	土井良順子			●		●		●		●		更年期外来・婦人科疾患	
眼科	医長	園田恭志	●		●		●	●	●	●	●		白内障手術・眼内レンズ挿入術、緑内障手術	
	医員	小林武史	●		●		●	●	●	●	●		網膜剥離手術、翼状片手術 眼瞼手術、レーザー光凝固術など	
耳鼻咽喉科	医長	後藤弘毅	●		●		●		●	●	●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療	
	医員	林田精一郎	●	●	●		●		●	●	●		小児の耳鼻咽喉科疾患 耳・鼻・咽喉頭・甲状腺などの手術	
放射線科	医長	大熊一彰	●						●				MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査	
	医員	富田直史			●		●						消化管造影、内視鏡検査	
	"	有川俊二									●		内視鏡下手術(ポリープ切除)	
	"	森有紀												
麻酔科	医長	深野拓	●		●		●		●		●		※月~金午前ペイン外来	
	医員	稲澤昭子	●		●		●		●		●		※月~金午後は手術麻酔	
歯科	医長	七種敏行	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	歯科一般 ※診療は要予約	
神経内科	医員	黒川智美									●		神経内科疾患一般	